

わが郷土を語る (その15)

中尾 佐之吉

「とんど」と「とんどまち」

「とんど」(注1)ということばは、広辞苑によると、小正月(1月15日)に門松・竹・注連縄(しめなわ)などを集めて焚く習俗であると書かれている。この地方でも勿論この風習はあった。(注2)ただし一般にたき火をすることも「とんど」と言っていた。

ところで、私の家の前の田んぼは通称「とんどまち」と言われていた(注3)。「まち」を漢字で書けば「町」であろう。「町」の字はいろいろの意味をもつが、ここでは、田んぼの区画の単位という意味に解釈すべきであろう。(例——田植えが済みましたかな——まだ「ふたまちも残っとなです」と言う場合、田んぼが2枚という意味の「まち」したがって、「とんどまち」とは「とんど」をする(一枚の)田んぼということである。

なぜこのような名前がついたかという、その田んぼの東南の隅、いまの「田中野田バス停」附近の一画が、昔は高田で稲も作れず空地だったので、正月にはむらの人が「おかざり」を持ちよって焚いたり、寒い日には附近の人が寄って「とんど」をしていたそうで、何時とはなしに「とんどまち」といわれるようになったと聞いている。

私がこどもの時にはここはもう水田になっていて、「とんど」はできなくなっていたが、その名前だけは残っていた。そしてその当時、「とんどまち」を一周してこいと、こわい上級生の命令でこの田んぼの周りをよく走らされたものである。いまは「とんどまち」の名前を知っている人は少なくなりました。

なお、「とんど」に関連してのことをついでに少し書かしてもらおう。私のこどもの頃、農繁期の終わった冬の間大人の男たちは、藁(わら)細工に精だしていた。「わらじ」や「ぞうり」もつくられたが主としては米の俵づくりである。縄をない藁を編むのである。こんなとき、個々の家でなく私の家の納屋などに何人かが集って雑談しながら楽しく作業していた。寒い朝などは、藁仕事で出てきたわらくづで「とんど」をして暖をとっていた。「とんど」にしても、その頃は何でも自由に燃やされたわけではない。稲藁でも扱殻でも、炊事や風呂焚きの貴重な燃料だったからである。それでも足りなくて、笹が瀬川の葦をも焚物にしていた。また、川を流れる木切れ一つも拾いあげて燃料の足しにしたのである。

昔からし尿も肥やしにしていたくらいだから、家の周囲、家の中、身のまわりのものに役に立たないと廃棄するものは何一つなかったと言ってよい。



電気・ガスの普及した現在では、家を新築するにあたって、古い家は昔のように解体して、不要なもので木材ならとっておいて燃料にする、などという気遣いはもう無しである。すぐ取り壊して焼き棄ててしまう。わが家がそうであった。古い家の材木を取っておいたら、10年くらいは燃料に使えたかも。

最近「非常事態宣言」がでるほど集積場はゴミの山である。冥途とやらへ連絡とれるものなら、この有様を先祖さまへ知らせてやりたいものと思う。どう言われるであろうか? 「もったいないことをしとる」ときついお叱りをうけるにちがいない。と言っても軽くは聞き流せない。半世紀もすれば、原油も枯渇する。諸事節約の時代が再来するかもしれない。

「とんど」が、つい横道にそれてしまった。お許しを。

注1) 「とんど」という言葉は、一般には「どんど」と言われているようである。

注2) 私がこどものころは、まだ盆・正月等は旧暦を使っていた。これは農作業の都合もあってのことと、当時としては、やむを得なかったわけである。なお、小正月といえば、この地方では2月1日であるが、一般的ではないようである。

注3) 人に名前があるように、土地にも公につけられた名前がある。「とんどまち」の公称地名は「前場」(まえば)である。(区画整理が完了すれば、この地名もなくなる)

相賀さんおめでとう

昨年、10月23日(金)開催の岡山市緑化推進大会において、緑化・美化功労者として、相賀 勇さんが市長より表彰されました。

相賀さんは辰巳西公園の除草・美化に数年にわたって奉仕されておりますが、その功績が認められたものです。

なお、この緑化推進大会に田中野田の銭太鼓同好会の方々がアトラクションに出場し大会に花を添えました。

< 会員名簿の変動 >

Table with columns: 世帯主, 地名, 地番, 電話, 職業, 備考. Lists members and their details.



編集後記

新年あけましておめでとうございます。平成5年はトリの年。漢字で「酉」と書きます。「酉」は「酒」の古字で、酉にあたる陰暦8月にできたキビで造られた酒が本来の意味だと聞いております。そこから、「熟す」「成功」ということを発想し、はばたく鳥がイメージされてきます。田中野田にとっても区画整理も完成に近づき、今年は将来に向かって大きくはばたいと欲しいと思います。なお、当月号を松の内に発行する予定でしたが、年末年始の雑事にかまけて遅れたことをお詫びします。